

平成 25 年度 学位論文

中国の大学生の愛着スタイルと友情の質との関連
に関する心理学的研究

兵庫教育大学大学院 学校教育研究科

人間発達教育専攻 学校心理・発達健康教育コース

M11213B 楊 洋

主任指導教員 浅川 潔司

指導教員 浅川 潔司

目 次

はじめに

摘要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

問題と目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

考察・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14

まとめにかえて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16

引用文献・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17

終わりに

附録

はじめに

幼児期から青年期へという発達の移行の中で仲間関係は社会生活の中で増幅し、青年期では、特に子どもの社会的発達に強く影響することを強調している(デーモン, 1990)。中国の大学生に対しても、仲間関係が大学生活の中に重要な役割を担っている。大学新入生の大学適応という観点から検討した李(2009)によれば、大学生が親と別れて大学という新しい環境で独立した生活を送るとき、大学への適応には、同年代の友人との友情が肯定的な役割を担っているという。その友情と人間関係が学習と学校適応感だけではなく、大学生自身の人格や社会性の発達にも深い影響を及ぼすことがわかった。しかしながら、大学生の愛着スタイルと友情の質との関連に焦点を当てた研究は希少である。

一方、于・周(2004)、久保田(1995)は、親子愛着スタイルが友情の質に与える影響について検討したところ、母親との親密性、親に対する信頼感の高い子供は友情の質においてプラスの特徴の要因が多いが、友人との親密性を求める傾向が低い学生が、親密性を求める学生に比べて思春期時代の母親に対する拒否・軽蔑の得点が高いと述べている。そこから、青年の仲間関係が青年の家族関係から影響を受けていることがわかった。従って、青年の仲間関係を検討するために、青年の家族関係をより深く理解する必要があると考えられる。

また、高木・黄(1995)は、中国の大学生では、信頼・感情得点は男子群の方が女子群よりも高いが、孤独得点は女子群の方が有意に高いことがわかった。しかしながら、長沼・落合(1998)、丹羽(2002)は、青年期の友人関係においては、女性は同性の友人と密着した関係を持つ付き合い方で感情の面では高得点であったが、男性は同姓の友人に自分の内面を表出せず、分離した関係で孤独感を感じやすいことを述べている。このことから改めて性差について検討する必要があると考えられる。

そこで、中国人大学生の見捨てられ不安と親密性の回避という愛着タイプに性差が生じるのかどうか、それぞれの愛着タイプと彼らの友情の質得点との間に一義的な関連が生じるかどうかという問題について検討することが本研究の主たる目的である。

摘要

在中国，大学生群体的社会地位较高，是社会的希望，他们在大学里的友谊质量的高低是朋友关系研究的重点，也是中国教育界和心理学界关心的重点。大学生在大学期间都会遇到不同的问题，友谊质量的高低对大学生的学校适应感以及学习生活状态都有着非常重要的作用，不仅如此，对大学生的社会性发展也起着不可忽视的作用；依恋是一个个体与另一个个体形成强烈情感联系的一种倾向。每个大学生的成长过程都各不相同，所以形成了自己独一无二的依恋风格。本研究对成人依恋，友谊质量二者在大学生中的一般状况进行了描述，并对两个变量在性别上所存在的差异以及成人依恋，友谊质量二者之间的关系进行了分析。

本文以中尾·加藤编制的亲密关系体验问卷和 Parker & Asher 的友谊质量问卷为研究工具，抽取了 253 名在校大学生，对其进行了成人依恋与友谊质量的关系研究。研究结果如下：

- (1) 不同性别在依恋焦虑和依恋回避上存在显著差异。
- (2) 不同性别在友谊质量的活动共有，主张性以及相互信任上存在显著差异，在担心上不存在显著差异。
- (3) 通过对成人依恋友谊质量之间的相关分析，结果显示，依恋焦虑与主张性和相互信任上存在显著差异，与活动共有以及担心上存在不显著差异；依恋回避与活动共有和主张性上存在显著差异，与相互信任以及担心上存在不显著差异。

关键词：成人依恋，友谊质量，依恋焦虑，依恋回避

問題と目的

個人と個人が関係を結ぶ上で、友人は個人の意志によって選ばれるものであり、作られる対人関係である(遠矢、1996)。社会性と人格の発達について、幼児期から青年期への発達的变化を整理したデーモン(1990)は、幼児期から青年期へという発達の移行の中で仲間関係は社会生活の中で増幅し、青年期では、とくに子どもの社会的発達に強く影響することを強調している。その仲間関係に対する認識は幼児期から青年期まで顕著な変化をきたすことが指摘された。デーモン(1990)によれば、児童期初期においては、友情とは遊び仲間との活動の共有のことであるが、思春期になると、友情は助け合うことと信頼を意味するようになり、青年中、後期になると忠誠心と親密性によって特徴づけられるようになるという。このように友情の性質と意味は各発達期において不変のものではなく、子どもの発達とともに変化するというのである。このため、青年が他者の人格と自分の人格を理解するようになっていくことが友情の質を変化させると考えられる。そのため、青年の社会性の発達のな特徴を理解するためには、彼らの仲間関係を検討する必要がある。

友人関係や人間関係が成立するまえに、友人の選択という行動がある。友人選択は、自己認識や友情に対する認識と緊密に関わっている。ところで、畠山(2009)は、友情とは友人関係において、相互の信頼関係を基礎として生まれる、愛着、尊敬、共感といった感情的結合のことであると規定している。友人関係と人格適応との関連について研究を進めた陳・黄(2000)は、友情の概念について、友人がお互いに認め合い、助け合ってもめごとを解決できる関係のことであるという。そこで、本研究では、友情を、心理的共感と思いやり及び信頼の情を抱き合い、もめごとが解決でき、対立のない友達の間的情愛のことと定義する。

また、中学生1～3年生を対象にして、改訂したParker & Asher

(1993)の友情の質尺度は中国青年の友情の質を測ることができるかどうかを明らかにする目的で、質問紙調査を用いて検討した楊・臧・趙(2011)は、友情の基本的な特徴と性質を評価する基準が友情の質であり、友人関係や人間関係を評価する重要な基準も友情の質に含まれるとしている。

Parker & Asher (1993)は、友情の質を信頼と思いやり、もめごとの解決、対立と裏切り、ヘルプとガイダンス及び仲間とレクリエーションや親しい交流の6種類のことでありと述べている。

友情の質に関する研究は、1980年代に欧米で開始され、1990年代から中国でも同種の研究が開始され現在に至っている(鄒, 1997)。于・周(2004)は小学4, 5, 6年生を対象とし、親子の愛着スタイルが友情の質に与える影響について検討するために、質問紙調査を行った。彼らによると、母親との親密性、親に対する信頼感の高い児童は友情の質においてプラスの特徴の要因が多く、友達との親密性が高く相手の良い所を肯定的に評価する。また、もめ事もスムーズに解決できると述べている。このように、仲間関係と親子関係の二種類の親密な対人関係の間に関連性があることが分かった。しかし、二種類の対人関係の関連は児童期だけではなく、先述のとおり、青年期・成人期に入っても関連があると考えられる。大学生を対象に対人関係の内化モデルの発達を検討した久保田(1995)は、子どもの頃の母親との親和関係性と、他者との関係を求める親和傾向との関連性を検討した。親和傾向の下位尺度を検討した彼は、友人との親密性を求める傾向が低い学生は、親密性を求める学生に比べて思春期時代の母親に対する拒否・軽蔑の得点が高いと記した。そこから、青年の仲間関係が青年の家族関係から影響を受けていることがわかった。従って、青年の仲間関係を検討するために、青年の家族関係をより深く理解する必要があると考えられる。

デーモン(1990)によると、青年は友達からの影響を多く受けるが、両親からの影響力を拒絶するわけではなく、実際、二つの対人関係も、相互に影響し合っている。また、青年期は一般的には家族生活

に対して強くまた肯定的な愛着を抱いていると述べている。

精神分析的な観点から愛着 (attachment) を検討した Bowlby (1969) は、人が特定の他者との間に築く緊密な情緒的な結びつきを愛着としている。その愛着理論によれば、乳幼児は社会的、精神的発達が正常になされるために、少なくとも一人の養育者と親密な関係を維持しようとする。すなわち、安心感を獲得するために養育者との近接性を保とうとするのである。

乳幼児の愛着研究は、ストレンジ・シチュエーション法 (Strange Situation Test, 以下 SST という ; Ainsworth, Blehar, Waters, & Wall, 1978) によって飛躍的に発展した。Ainsworth et. al (1978) は、乳幼児の愛着の質を大きく、回避型 (avoidant)、安定型 (secure)、抵抗 / アンビバレント型 (anxious/ambivalent) の 3 つに分類した。

青年期・成人期の愛着研究について、Hazan & Shaver (1987) は、愛着スタイルの成人における適用性を検証する研究を行うことを目的として幼年期における三つの愛着スタイルについての記述から構成された Adult Attachment Scale を作成した。彼女らは 14 歳から 82 歳までの青年成人を対象として質問紙調査を行った。その結果によれば、愛着スタイルという概念は青年・成人期においても十分に適用可能であることが示された。Hazan & Shaver (1987) も、恋愛を愛着プロセスであると概念化した。そのため、その後の成人愛着研究では、恋愛対象への愛着スタイルを測定することが重要な課題となったのである。

一方、愛着の内的作業モデル (Internal Working Models, 以下は IWM と略す) という理論がある。IWM は、自分は他者に愛される価値を持つかという自己の IWM、他者は自分を受容してくれるかという他者の IWM の 2 次元から捉えられ、そのバランスによって IWM の性質の違いを、愛着スタイルとして類型化し得る。Batholomew & Horowitz (1991) は Bowlby (1973) の愛着の内的作業モデル理論に基づき、青年・成人期においても自己ならびに他者への期待や信念という「自己モデル」、「他者モデル」の愛着 2 次元から解釈可能で

ある見解を愛着スタイルの分類に用いて愛着の質を安定型、拒絶型、とらわれ型、恐れ型という4カテゴリーの提唱を行った。しかし、それぞれの愛着スタイルを測定する尺度は先行研究の結果を比較し議論することが困難な場合もあった。このような問題を解決するために、Brennan, Clark, & Shaver (1998)は、今までに開発された愛着スタイル尺度を踏まえて The Experiences in Close Relationships inventory(以下、ECRと略す)を作成した。Brennan et.al(1998)によって、理論的に「自己モデル」に対応する「見捨てられ不安」と、「他者モデル」に対応する「親密性の回避」の二次元が見出された。しかし、初対面とか、親密さがまだ明確でない場面で、他者との相互作用パターンを測定することは今までの恋人を対象とした愛着スタイル尺度では困難であろう。そこで、中尾・加藤(2004)は一般他者を対象とした愛着スタイル尺度(The Experiences In Close Relationships Inventory—The Generalized Other Version、以下、ECR-GOと略す)を作成した。また、その尺度の信頼性と妥当性は十分確認できたことと、恋人だけではなく、一般他者を対象とした愛着スタイルを測定できることから、本研究では中尾・加藤(2004)の一般他者を対象とした愛着スタイル尺度(ECR-GO)が採用された。

また、愛着スタイルという概念の青年・成人期の人格発達を説明するものとして適用できる可能性が示された、その後、愛着スタイルが個人並びに個人間の適応性に関与するという観点から、Mikulincer & Florian(1998)は、見捨てられ不安というネガティブな自己モデルが強いほど、無力感を生み、苦痛やネガティブな思考を高めることによって対人関係には影響があると述べている、青年期の愛着スタイルと友人関係における適応性との関連を検討した金政(2007)も、関係不安(見捨てられ不安)の高さゆえに、友人との関係に対しても積極的にアプローチできない。親密性の回避の高さゆえに、友人と親密な関係をうまく築けないことを述べた。そこから、成人の愛着スタイルと友人関係との間に一義的な関連があると

考えられる。

中国においては、小学生、中学生、高校生を対象として愛着スタイルと友情の質との関連について質問紙調査を行った結果、友情の質と愛着スタイルとは大きな関連があることが報告された(李・鄒・劉・楊, 2009; 于・周, 2004)。大学新生の大学適応という観点から検討した李(2009)によれば、大学生が親と別れて大学という新しい環境で独立した生活を送るとき、大学への適応には、同年代の友人の友情や良い人間関係が肯定的な役割を担っているという。その友情と人間関係が学習と学校適応感だけではなく、大学生自身の人格や社会性の発達にも深い影響を及ぼすことが示唆された。したがって、この友情が最も重要な意義を持つのは大学生と考えられる。また、楊・臧・趙(2011)は、中国の最近20年間において、青年期の友情の質は仲間関係の研究の重点で、中国教育界と心理学界の関心の焦点である。数多くの研究から、友情の質が高い生徒は低い生徒より各面での適応感が高いという。しかしながら、大学生の愛着スタイルと友情の質との関連に焦点を当てた研究は希少であり、大学生の友情の質は彼らの社会性の発達や適応感に影響を及ぼすことを考慮すると、本研究において、青年期の愛着スタイルと友情の質との関連を検討することは意義深い。

また、中国人大学生の対人態度の性差を調査した高木・黄(1995)によると、中国の大学生では、信頼・感情得点は男子群の方が女子群よりも高いが、孤独得点は女子群の方が有意に高いことがわかった。しかしながら、長沼・落合(1998)は、青年期の友人関係においては、女性は同姓の友人と密着した関係を持つ付き合い方で感情の面では高得点であったが、男性は同性の友人に自分の内面を表出せず互いに分離した関係で孤独感を感じやすいことを述べており、丹羽(2002)も、男性は女性より対人関係への志向性が低い傾向にあるという。そこで、改めて性差について検討する必要があると考えられる。

王(2008)は、大学生の愛着スタイルと人間関係及びメンタルヘル

スとの関連を検討するため、大学生を対象として質問紙調査を行ったところ、見捨てられ不安の高い学生群が人間関係の中で自分の主張を抑えるため、人間関係の満足度が低下すると述べた。親密性の回避の高い学生は、人間関係の親密さに向き合うことから逃れ、仲間の悩みや親密性の要求を無視することが多いため、対立が起こる。このように愛着タイプは友人関係のいくつかの場面と関連することが明らかにされているが、大学生を対象として愛着スタイルのどのタイプがどのような構造で友情の質のどの場面と関連しているかを組織的に検討した研究は希少である。

そこで、本研究では、中国人大学生の見捨てられ不安と親密性の回避という愛着タイプに性差が生じるのかどうか、それぞれの愛着タイプと彼らの友人関係の質得点との間に一義的な関連が生じるかどうかという問題について検討することが本研究の主たる目的であった。

方 法

調査対象：中国の海南省A大学の学生253名（男子56名、女子197名）が研究協力者として本研究に参加した。この大学は中国の南の島での師範大学であるため、教員養成の専攻が多く、さらに女子生徒の数が男子生徒の数より多いという特徴があった。

質問紙の構成：

①一般他者を想定した愛着スタイル尺度：青年・成人期の愛着の二つの次元である「見捨てられ不安」（18項目）と「親密性の回避」（12項目）を測定するために本尺度が中国語に翻訳されて使用された。本尺度は中尾・加藤（2004）によって作成された一般他者を対象とした愛着スタイル尺度（ECR-G0）である。中尾・加藤（2004）によってその妥当性は検証されている。質問は「非常に当てはまる」（4点）から「まったく当てはまらない」（1点）までの4件法で回答が求められた。

②友情の質尺度：中国人青年の友情についての態度を測定するに

あたっては、Parker & Asher (1993)によって作成された友情の質尺度が中国語に翻訳されて使用された。翻訳は、中国語と英語と日本語が堪能な心理学専攻の大学院生が行った。本尺度は、「信頼と思いやり」、「もめごとの解決」、「対立と裏切り」、「ヘルプとガイダンス」、「仲間とレクリエーション」、「親しい交流」の6つの下位尺度からなり、計40項目で構成されている。質問は「非常に当てはまる」(4点)から「まったく当てはまらない」(1点)までの4件法で回答が求められた。

要因計画：性(男子、女子)、青年・成人期の愛着スタイルの二次元である「見捨てられ不安」と「親密性の回避」を独立変数とし、友情の質を従属変数とし、2(性)×3(青年・成人期の愛着スタイルの水準)の2要因計画に基づいて分析することとした。

手続き：授業の間の休み時間を利用して集団場面において本調査は実施された。研究者からの教示として、1)この調査は学校の成績とは無関係であること、2)個人の秘密は守られること、3)回答したくない人は回答しなくてもよいという権利があること、4)調査内容は研究の目的にそってのみ使用されることが伝えられた。

結 果

各尺度についての因子分析の結果

友情の質の測定尺度の因子分析結果

友情の質測定尺度において、有効回答者(253名)の回答に基づき、主因子法—プロマックス回転による因子分析を行った。因子負荷量.40とし、因子の解釈をした結果、解釈可能な4因子26項目が抽出され、第一因子を「活動の共有」、第二因子を「主張性」、第三因子を「相互信頼」、第四因子を「気遣い」と命名した。信頼性係数は全体が $\alpha = .86$ 、第一因子が $\alpha = .89$ 、第二因子が $\alpha = .83$ 、第三因子が $\alpha = .75$ 、第四因子が $\alpha = .72$ であった(Table1参照)。

Table1 大学生の友情の質尺度の因子分析結果(主因子法—プロマックス回転)

	第一因子	第二因子	第三因子	第四因子
第一因子 「活動の共有」 $\alpha = .89$				
B-12 いつも昼ごはんを一緒に食べる。	.753	.142	-.177	-.076
B-14 煩雑な事をよく互いに手伝う。	.750	.026	.036	-.064
B-26 いつも物の貸し借りをする。	.729	.045	-.115	-.004
B-15 お互いの思いを共有する。	.635	.037	.132	.029
B-23 問題を解決するために、アドバイスをくれる。	.581	-.082	.027	.038
B-7 お互いの家に行き来する。	.576	-.081	.205	.006
B-9 いつも休み時間に一緒に遊ぶ。	.558	-.034	.154	.011
B-11 私たちが喧嘩をしても、簡単に仲直りできる。	.553	-.075	.083	.006
B-24 私に起こった不愉快な出来事について相手に話す。	.547	-.128	.073	.086
B-33 いつも一緒に楽しいことをする。	.526	-.192	-.063	.171
B-28 特別な好意をお互いに持っている。	.433	.092	.242	.049
第二因子 「主張性」 $\alpha = .83$				
B-22 よく言い争いをする。	.152	.880	.051	.012
B-18 よく相手を困惑させる。	-.053	.747	.079	.013
B-27 よく喧嘩をする。	.016	.703	.036	.021
B-17 私の話をぜんぜん聞いてくれない。	-.054	.681	-.029	.043
B-19 よく他の人に私の悪口を言う。	-.057	.570	.040	.019
第三因子 「相互信頼」 $\alpha = .75$				
B-3 お互いの存在に重要性和特別性を感じさせてくれる。	.138	.019	.721	-.078
B-2 プライベートな事について話す。	.140	.079	.589	-.125
B-5 悲しいことをお互いに話す。	.188	-.041	.573	-.067
B-4 私にとっても賢いと言ってくれる。	-.209	.131	.543	.157
B-6 もし他の人が私の悪口を言っていたら、私を守ってくれる。	-.047	-.034	.520	.244
第四因子 「気遣い」 $\alpha = .72$				
B-36 もし相手が私を傷つけたら、謝ってくれる。	-.255	-.124	.167	.660
B-34 遊ぶときに良いアイデアを出してくれる。	.295	.149	-.225	.636
B-35 いつも私たちの問題について話し合う。	.028	.163	-.022	.562
B-37 物事を成し遂げるための良いアイデアをお互いに出す。	.081	-.189	.022	.541
B-40 お互いに怒っているとき、その解決策を話し合う。	.070	.113	.115	.422
	I	II	III	IV
固有値	7.06	3.52	5.23	4.32
因子寄与率	28.99	9.96	3.89	2.47
因子相関	I	II	III	IV
I	—	-.355	.697	.613
II		—	-.181	-.147
III			—	.452
IV				—

一般他者を想定した愛着スタイル尺度の因子分析結果

青年期の一般他者を想定した愛着スタイルを測定するために、主因子法ーバリマックス回転による因子分析を行った、固有値1以上で固有値の減衰状況と因子負荷量、因子の解釈の可能性を考慮した結果、2因子22項目が抽出され、第一因子は「見捨てられ不安」、第二因子は「親密性の回避」と命名した。信頼性係数は愛着の全体が $\alpha = .84$ 、見捨てられ不安は $\alpha = .87$ 、親密性の回避は $\alpha = .73$ であった (Table2参照)。

Table2 一般他者を想定した愛着スタイル尺度の因子分析結果(主因子法ーバリマックス回転)

	第一因子	第二因子	共通性	
第一因子 「見捨てられ不安」 $\alpha = .87$				
A-30 私は一人ぼっちになってしまうのではないかと心配する。	.684	-.031	.469	
A-28 私は、見捨てられるのではないかと心配だ。	.680	.066	.467	
A-12 私は人に自分のことを好きになってもらうことができなかつたら、私はきっと気が動転して、悲しくなったり腹が立ったりする。	.646	.050	.420	
A-26 私はいつも、人が私に対して抱いていてくれる気持ちが、私が人に対して抱いている気持ちと同じくらい強ければいいのになあと思う。	.642	-.031	.414	
A-17 私は、人にもっと自分の感情や自分たちの関係に真剣であることをしめさせようとしているのを感じる事がときどきある。	.606	.003	.367	
A-25 私は誰かと付き合っていないと、何となく不安定な気持ちになる。	.603	-.208	.407	
A-21 私は、知り合いを失うのではないかとけっこう心配している。	.564	-.015	.318	
A-18 私は、知り合いが私のことをほっといて自分ひとりで何かをすることが重なってくると腹が立ってきてしまう。	.552	.129	.321	
A-11 私は、私がいてほしいと望むぐらいに人がそばにいてくれないと、いらいらしてしまう。	.528	-.034	.280	
A-10 私には、人が私に対して好意的であるということを何度も何度も言ってくれることが必要だ。	.525	.130	.293	
A-4 私が人のことを大切に思うほどには、人が私のことを大切に思っていないのではないかと私は心配する。	.516	-.191	.303	
A-8 私は、人が必要なときにいつまでも私のためにいてくれないといらいらする。	.511	.005	.261	
A-23 私は、いろいろな人との関係について、非常に心配している。	.497	.284	.327	
A-14 人にだめだなあといわれると、自分は本当にだめだなあと感じる。	.450	.172	.232	
A-9 私があまりにも気持ちの上で完全にひとつになることを求めるがために、ときどき人はうんざりして私から離れていってしまう。	.427	.253	.246	
A-13 私が親密になりたいと望むほどには、人は私と親密になりたいと思っていないと私は思う。	.416	.171	.202	
第二因子 「親密性の回避」 $\alpha = .73$				
A-15 私は人に心を開くのに抵抗を感じる。	.062	.740	.552	
A-16 心の奥底で何を感じているかを人に見せるのはどちらかというと好きではない。	.187	.668	.481	
A-3 * 私は、心の奥底にある考えや気持ちを人に話すことに抵抗がない。	-.245	.580	.397	
A-6 私は人とあまり親密にならないようにしている。	.142	.461	.233	
A-27 私は人とあまりに親密になることがどちらかというと好きではない。	.084	.456	.215	
A-1 * 私は比較的容易に人と親密になれると思う。	-.121	.445	.213	
※*は逆転項目	固有値	5.14	2.28	7.42
	因子寄与率	23.37	10.35	33.72

青年期の愛着スタイルと友情の質との関係

上述の分析結果に基づき、一般他者を想定した愛着スタイル尺度の二つの下位尺度ごとに、それぞれの平均値とS.D.に基づいて、各スタイル高得点群(H群、平均得点+1/2S.D.以上)と低得点群(L群、平均値-1/2S.D.未満)、及び中間群(M群、H群にもL群とも属さない)の3群に分類された。そこで友情の質測定尺度の各下位尺度得点を従属変数、性と一般他者を想定した愛着スタイル尺度の各下位尺度得点水準を独立変数とする2(性)×3(愛着スタイル得点のL、M、H群)の2要因分散分析を行った。

愛着スタイルの見捨てられ不安と各友情の質得点の関係

見捨てられ不安と友情の質がどのように関係するのかという問題を検討するために、見捨てられ不安の3水準群ごとに友情の質得点の平均値とSDを算出し、整理した(Table3)。

Table3 愛着スタイル下位尺度見捨てられ不安水準の性と群の友情の質得点平均値及びSD

性	水準群	N	活動の共有		主張性		相互信頼		気遣い	
			mean	SD	mean	SD	mean	SD	mean	SD
男	L	15	30.40	6.42	6.67	2.41	13.00	2.59	12.80	2.83
	M	19	29.63	5.33	7.84	2.79	12.32	2.16	13.84	2.06
	H	22	30.50	4.45	10.86	3.19	14.36	2.06	13.82	2.77
女	L	69	33.09	6.31	6.51	2.11	13.42	2.65	13.46	2.63
	M	64	32.28	6.56	7.17	2.32	13.63	2.93	12.80	3.19
	H	64	33.88	5.84	8.55	3.06	15.03	2.43	13.45	2.44

性と見捨てられ不安による友情の質の分散分析の結果において、活動の共有には、性の主効果が見られ、女性群の得点($\bar{x}=33.11$)が男性群($\bar{x}=30.18$)より有意に高くなっていた($F(1.247)=10.01$, $p<.01$)。愛着スタイルの下位尺度の見捨てられ不安水準の群と性の交互作用は有意ではなかった。主張性には、主効果が見られ($F(2.247)=22.33$, $p<.001$)、下位分析(Tukey法、以下も同様)の結果、L群($\bar{x}=6.59$) \doteq M群($\bar{x}=7.51$) < H群($\bar{x}=9.71$)という関係で有意差が認められた。性の主効果も有意($F(1.247)=6.95$, $p<.01$)であり、女性群($\bar{x}=7.41$)より男性群($\bar{x}=8.46$)得点が有意に高

くなっていた。交互作用は有意ではなかった。相互信頼には、主効果が見られ($F(2.247)=8.04$, $p<.001$)、下位分析の結果、L群

($\bar{x}=13.21$) \div M群 ($\bar{x}=12.97$) < H群 ($\bar{x}=14.70$) という関係で有意差が認められた。性の主効果も有意($F(1.247)=4.06$, $p<.05$)であり、男性群 ($\bar{x}=13.23$) より女性群 ($\bar{x}=14.03$) の方が有意に高くなっていた。しかし、交互作用は有意ではなかった。気遣いには、主効果及び交互作用も有意ではなかった。

愛着スタイルの親密性の回避と各友情の質得点の関係

また、親密性の回避と友情の質とどのように関係するのかという問題を検討するために、親密性の回避の3水準群ごとに友情の質得点の平均値とSDを算出し、整理した(Table 4)

Table 4 愛着スタイル下位尺度親密性の回避水準の性と群の友情の質得点平均及びSD

性	水準群	N	活動の共有		主張性		相互信頼		気遣い		
			mean	SD	mean	SD	mean	SD	mean	SD	
親密性の回避	男	L	30.91	6.77	7.09	2.98	13.45	2.16	12.73	3.16	
		M	31.27	5.19	8.41	3.66	13.14	2.43	14.32	2.37	
		H	28.78	4.33	9.78	2.92	13.39	2.51	13.22	2.33	
	女	L	62	34.92	6.60	6.47	2.05	14.97	2.30	13.23	2.79
		M	75	33.71	5.79	7.60	2.72	14.12	2.83	13.67	2.68
		H	60	30.50	5.62	8.07	2.87	12.88	2.73	12.73	2.84

性と親密性の回避による友情の質の分散分析の結果において、活動の共有には、主効果が見られ($F(2.247)=5.42$, $p<.01$)、下位分析(Tukey法、以下も同様)の結果、L群($\bar{x}=32.91$) \div M群($\bar{x}=32.49$) > H群($\bar{x}=29.64$)という関係であることが分かった。そして、性の主効果も見られ、男性群 ($\bar{x}=30.32$) より女性群 ($\bar{x}=33.04$) の活動の共有得点が有意に高くなっていた($F(1.247)=8.61$, $p<.01$)。交互作用は有意ではなかった。主張性には、主効果が見られ($F(2.247)=7.40$, $p<.01$)、下位分析の結果、L群 ($\bar{x}=6.78$) < H群 ($\bar{x}=8.93$) という関係で有意差が認められた。性の主効果も有意($F(1.247)=5.85$, $p<.05$)であり、女性群 ($\bar{x}=7.38$) より男性群 ($\bar{x}=8.43$) の得点が有意に高くなっていたが、愛着スタイルと性の交互作用は有意ではなかった。相互信頼と気遣いには、いずれ

の主効果及び交互作用も有意ではなかった。

考 察

愛着スタイルと友情の質との関連について

青年期の愛着スタイルの下位尺度ごとに見ると、見捨てられ不安が高いほど友人間の主張性の得点が上昇することがわかった。この点について、Mikulincer & Florian (1998)は、見捨てられ不安の高さというネガティブな自己モデルが、無力感や統制感の無さを生み、それ故、ストレスが出ることから苦痛やネガティブな思考を高めると述べており、朱(2010)も、安定傾向の高い人が自分とほかの人にポジティブな感情を持つ、彼らは自分が価値ある人間だと信じ、親密な関係には快適な感情を持つことを指摘している。従って、自分は他者から愛されるに値しない存在だというような自分についてのネガティブなモデルが、友人関係において重視されることにより、不信感を喚起させ、相手から過度に愛を求めるように機能し、相手に見捨てられまいとしてしがみつような行動をとることがある。しがみつき行動が効果なしとわかると、今度は、怒りが燃え上がり、相手を攻撃しようとし、暴言をふるうこともしばしばみられることで、社会的葛藤を生む結果であると考えられる。

そして、見捨てられ不安が高いほど友人の相互信頼が高いことがわかった。見捨てられ不安とは、自身にとって信頼を寄せべき重要な他者が自分自身から離れて行き、自分を見捨て去るのではないかという漠然とした不安である。斉藤・吉森・守谷・吉田・小野(2012)も、幼児は自分自身の分離と自律への欲求と、自律に必要な母親からの愛情供給の喪失との間で葛藤状態に陥った結果、幼児の中に重要な存在(母親)が自分から去ってしまうのではないかという不安、すなわち見捨てられ不安が生じる。実は母親にも接近したくて相互信頼を高いレベルで保とうとするが、見捨てられると不安になる葛藤があると示唆さ

れた。この得点が高いことは、見捨てられるという不安が高いとともに、他者を過重に信頼しないでおこうという思いを喚起する。従って、ここのH群ほど、不安があればこそ他者への相互信頼性を高いレベルで保とうとする機制が機能したものと思われる。

また、青年期の愛着スタイルの下位尺度親密性の回避水準でいえば、その高群より中群、低群の方が活動の共有は有意に高いということが明らかになった。そして、その低群より高群の方は友人の間の主張性が高いということも明らかになった。これは、愛着次元の親密性の回避の高さは、対人関係での敵意や怒りの感じやすさと関連するとしたMikulincer(1998)の見解を支持するものといえる。また、王(2008)は、回避傾向の人が認識や感情的な面では仲間と距離を持ち、自分の内面を出さず、仲間に頼ることをしない、そして、人間関係の中にネガティブな思い出を多く思い出す特徴があると述べており、先行研究の于・周(2004)も親に対する信頼感の高い子供は仲間関係にはプラスの特徴があって友人との親密性が高く、もめ事もスムーズに解決できることを述べている。従って、親密性の回避が高い場合、対人関係でネガティブな感情を経験しやすく、また、親しい交流をしない彼らは相手の心理状態をうまく察することができず、その場に応じた適切な行動を取れないため、相手との対立が起こりやすいと考えられる。つまり、親密性の回避が高い大学生は仲間と距離を持ち、自分の内面を出さないため、活動の共有が低くなる。そこから、友人を信頼して心を開いて親密関係を回避しないことは友人に対する思いやりの感情を高めて自分の主張を抑制し、対立の行動を避ける可能性があるが、もしそうであるならば、それが親密な友人関係の形成につながると考えられる。

性差について

上記の結果から、青年期の愛着スタイルの下位尺度ごとに見ると、見捨てられ不安水準でいえば、活動の共有と相互信頼におい

ては、男性群より女性群の得点が有意に高い、女性のほうが男性より友だちのことを信頼し、よく一緒に食事をし、活動に参加するといえる。長沼・落合（1998）は、青年期の同性の友達との付き合い方においては、男女の差異として、女性は同性の友人と密着した関係を持つ付き合い方をし、男性はありのままの自分といった内面を同性の友人に表出せず心理的距離を取り、互いに分離した関係を持っているという。つまり、女性は友人関係の中で友だちと一緒に活動を取り、お互いのことを信頼する付き合い方を取っていると考えられる。

親密性の回避水準では、男性群より女性群の方が活動の共有が有意に高い傾向にあるといえる。丹羽（2002）によると、男性は他者から分離し、自律的に行動することが多く、女性より対人関係への志向性が低い傾向にある。女性は対人関係への志向性が高く、親密な関係を形成、維持しようとする傾向にある。つまり、男性は他者に依存せず、自律的な行動が主体となり、女性よりも友人との心理的距離が大きいため、友人への親密性を形成しようとせず、気を遣うことが少ない、活動の共有が少ないと思われる。

見捨てられ不安水準と親密性の回避水準とも、女性より男性の方が主張性の得点が有意に高い傾向にある。それは、女性は男性より親しい友人関係を保つため、友人に対する思いやりの感情が高く、自分の主張を抑制する行動をとる可能性があると考えられる。

まとめにかえて

本研究から、愛着スタイルの下位尺度の見捨てられ不安と親密性の回避の傾向の高さゆえに、友達に対する不信が強く、ネガティブな感情を持ちやすいため、友人とうまく付き合えず、友人間に問題が出て友情の質も低下することがわかった。これは、愛着次元の関係不安と親密性の回避が高いほど、友人との親密な関係をうまく築けず、関係への満足度は低下することを

述べた先行研究の金政(2007)の見解を支持するものといえる。このことから、大学生の友情の質を高める対策についていくつかの課題が挙げられる。まず、児童期から学生に正しい友情観を養うために各学校がテキストに工夫したり、友達作りのイベントをしたりすることで学生が友情について深く理解するようすべきである。また、中国の大学には、補導員制度が実施されている。補導員は大学生の生活面においても学習面においても密接に接触する人物である。そのため、この特有の補導員制度を小、中、高校にも導入し、学校の管理職員、担任先生や保護者と一緒に友達を作るための援助チームも作って学生の対人関係を改善して友情の質を高めるのが有効だと思われる。

引用文献

- Ainsworth, M. D. S., Blehar, M. C., Waters, E., & Wall, S. 1978
Patterns of Attachment. Hillsdale, New Jersey: Lawrence
Erlbaum Assoc. 45-64.
- Batholomew, K., & Horowitz, L. M. 1991 Attachment styles
among young adults: A test of a four-category model *Journal
of Personality and Social Psychology* 61 .226-244.
- Bowlby, J. 1969 Attachment and loss, Vol. 1: Attachment. New York:
Basic Books.
- Bowlby, J. 1973 Attachment and loss, Vol. 2: Separation. New
York: Basic Books.
- Brennan, K. A., Clark, C. L., & Shaver, P. R. 1998 Self-report
measurement of adult attachment: an integrative overview.
In J. A. Simpson & W. S. Rholes (Eds.) Attachment theory and close
relationships. New York: The Guilford Press Pp. 46-76.
- 陈建文・黄希庭 2000 友谊关系与人格适应 *心理学动态* 第3期
61-66.
- 畠山 寛 2009 共感を基礎とした社会性発達の検討 : 思いや

- り 攻撃 友情(自主シンポジウムa7) 日本教育心理学会総会発表論文集 51, S50-S51.
- Hazan, C., & Shaver, P. R. 1987 Romantic love conceptualized as an attachment process. *Journal of Personality and Social Psychology*, 52, 511-524.
- 金政祐司 2007 青年期の愛着スタイルと友人関係における適応性との関連 *社会心理学研究* 第22巻第3号, 274-285.
- 久保田まり 1995 アタッチメントの研究—内的ワーキングモデルの形成と発達 川島書房.
- 李小青・邹泓・刘艳・杨颖 2009 中学生同伴依恋的特点及其与友谊质量的关系: 社会交往目标的中介作用 *心理发展与教育* 第3期 32-38
- 李玉銀 2009 论当代大学生应如何处理好比人际关系 论文天下 论文网
- Mikulincer, M. 1998 Adult attachment style and individual differences in functional versus dysfunctional experiences of anger. *Journal of Personality and Social Psychology*, 74, 513-524.
- Mikulincer, M., & Florian, V. 1998 The relationship between adult attachment styles and emotional and cognitive reactions to stressful events. In Simpson, J., & Rholes, S. (eds.,) *Attachment theory and close relationships* (pp. 143-165). New York: Guilford.
- 長沼恭子・落合良行 1998 同性の友達との付き合い方から見た青年期の友人関係 *青年心理学研究*, 10, 35-47.
- 中尾達馬・加藤和生 2004 一般他者を想定した愛着スタイル尺度の信頼性と妥当性の検討 *九州大学心理学研究*, 5, 19-27.
- 丹羽 智美 2002 青年期における親への愛着が友人関係に及ぼす影響: 環境移行期に着目して 名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要. *心理発達科学* 49, 135-143.

- Parker, JG., & Asher, SR. 1993 Friendship and friendship quality in middle childhood: Links with peer group acceptance and feelings of loneliness and social dissatisfaction. *Developmental Psychology*, 29, 611-621.
- 齐藤富由起・吉森丹衣子・守谷賢二・吉田梨乃・小野淳 2012 青年期における見捨てられ不安尺度開発の試み その1 - 社会構造の変化を重視して - 千里金蘭大学紀要 9, 13-20.
- 高木秀明・黄毓芳 1995 日中青年の自己意識、対人態度、親子関係に関する比較研究(共著) 横浜国立大学教育紀要 第35集巻(頁1-18)
- 遠矢幸子 1996 友人関係の特性と展開 大坊郁夫・奥田秀字(編) 親密な対人関係の科学 誠信書房 Pp.89-116.
- 王宇 2008 大学生成人依恋现状及其与人际关系和心理健康水平的关系研究 遼寧師範大学修士卒業論文.
- W.デーモン 1990 社会性と人格の発達心理学 北大路書房 326-344.
- 杨建原・臧运洪・赵守盈 2011 应用项目反应理论对友谊质量量表修定-以结构方程模型, 层面理论多种技术支持修定表的质量心理学进展, 1, 97-105.
- 于海琴・周宗奎 2004 儿童的两种亲密人际关系: 亲子依恋与友谊 心理科学 271(1) 143-144.
- 朱海东 2010 成人依恋类型对研究生恋爱质量的影响研究 中国论文下载中心
- 邹泓 1997 同伴接纳, 友谊与学校适应的关系 [J]. 心理发展与教育, 3期, 55-59.

終わりに

本研究から、見捨てられ不安と親密性の回避の二つの愛着スタイルとも友情の質の主張性と関連があることが分かった。その原因は、見捨てられ不安と親密性の回避が高い場合、対人関係でネガティブな感情を経験しやすく、また、相手の心理状態をうまく察し、その場に応じた適切な行動を取ることができないため、対立の行動が起こりやすいと考えられる。そこから、友人を信頼して心を開いて親密関係を回避しないことは対立の行動を抑制する可能性があるが、もしそうであるならば、それが親密な友人関係の形成につながると考えられる。また、大学の方は生徒に正しい友情観を養うために工夫して大学生が友情について深く理解させるべきである。

本研究を進めるにあたって、多くの方々にご協力をいただきまして、誠にありがとうございます。

海南師範大学の学長先生に、兵庫教育大学に推薦していただき、かけがえのない2年間の留学生生活を過ごせることができました。このような機会をいただいたことに心から感謝申し上げます。

兵庫教育大学大学院学校教育研究科学校心理・健康発達教育コースの浅川潔司教授には、丁寧なご指導を賜りました。ゼミをはじめ様々な場面でご指導をいただき心から感謝申し上げます。

また、学校心理・健康発達教育コースの先生の方々にも、中間発表などにおいて多くのご助言、並びに温かく励ましをいただき厚くお礼を申し上げます。

さらに、本研究を遂行するにあたって、データ収集にご協力いただいた海南師範大学の唐玲先生に心より感謝いたします。

そして、大学院での生活を共にし、2年間大変お世話になった学校心理学コースの多くの皆様、本当にありがとうございます。

最後になりましたが、2年間支えてくださった方々に、心から感謝いたします。

附 録

附録Ⅰ 大学生の対人関係に関する調査の中国語版

附録Ⅱ 大学生の対人関係に関する調査の日本語版

关于大学生人际关系的问卷调查

兵庫教育大学 学校教育学院
学校教育学专业 学校心理学·发展健康教育系
浅川 潔司研究室 楊 洋

- ★调查结果只用本论文研究.
- ★ 本问卷与学习成绩无任何关系，而且各个问题不存在“正确”或“错误”的答案。因此，请根据您的真实感受给出一个适当数值的答案。
- ★ 您所填写的资料将会被严格保密，请放心作答。若题项中有任何让您觉得不舒服的，您可以随时终止填写问卷。
- ★ 请独立完成，不要看他人的答案，也不要和他人商量。
- ★ 请从头到尾依次仔细作答，不要有遗漏

请就您的实际情况，在适当的选项上画○和填入数字。

1 性别 (男 · 女)

2 年龄 () 岁

A	在您与他人的交往当中，关于你的感觉和看法最符合的是哪个。请在1-4之间选择最符合您的答案。	1 完全不 符合	2 一点 点符合	3 相当 符合	4 完全 符合
1	我比较容易与人亲近。	1	2	3	4
2	一般我不担心朋友会抛弃我。	1	2	3	4
3	我不反感将自己的真实想法和感受告诉别人。	1	2	3	4
4	我怕别人不在乎我，而我却很在乎别人。	1	2	3	4
5	我愿意依赖他人。	1	2	3	4
6	我尽量与人保持距离。	1	2	3	4
7	因为我特别希望与他人关系密切，所以有时别人会烦我，远离我。	1	2	3	4
8	我害怕在我需要别人的时候，却没人陪在我身边。	1	2	3	4
9	由于我要求别人的个人好恶与我一致，有时别人会烦我而远离我。	1	2	3	4
10	我需要别人不断地向我表达他的善意	1	2	3	4
11	在我非常希望别人在我身边的时候，别人如果不在的话，我会烦躁不安。	1	2	3	4
12	如果别人不喜欢我，我会惊慌，会伤心，会生气。	1	2	3	4
13	我想和别人关系亲密，但对方未必这么想。	1	2	3	4
14	如果别人说我不行，我会真的认为自己不行。	1	2	3	4
15	我不喜欢对人敞开心扉。	1	2	3	4
16	我不太想让人知道我内心深处的真实感受。	1	2	3	4
17	我经常想让别人表现出他对我的感情或友情是认真的。	1	2	3	4
18	如果朋友不带上我，自己单独行动的话，我会生气。	1	2	3	4
19	我不太允许自己依赖别人。	1	2	3	4
20	我与人无话不谈。	1	2	3	4
21	我很怕自己会失去朋友。	1	2	3	4
22	我会与他人谈论自己的事情和我所担忧的问题。	1	2	3	4
23	我很担心自己的人际交往。	1	2	3	4
24	我不反感向别人寻求安慰和建议以及帮助。	1	2	3	4
25	我如果不与人往来，就会觉得不安。	1	2	3	4
26	我总觉得如果别人在意我，能像我在意他那样就好了。	1	2	3	4
27	我不是很喜欢与他人过于亲密。	1	2	3	4
28	我总担心不被人需要。	1	2	3	4
29	我很享受与人亲近。	1	2	3	4
30	我害怕自己会变成孤单一人。	1	2	3	4

B	您和您好朋友的相处方式，最符合的是哪个，请在1-4之间选择最适合您的答案。	1 完全不 符合	2 一点 点符合	3 相当 符合	4 完全 符合
1	当别人肯定我的想法时，我会很开心。	1	2	3	4
2	我会和朋友说我比较私密的事情。	1	2	3	4
3	我和朋友都会让彼此觉得很重 要，很特别。	1	2	3	4
4	朋友会夸我很聪明。	1	2	3	4
5	我和朋友会聊一些彼此不开心的事情	1	2	3	4
6	如果有人说我坏话，朋友会帮我 辩解。	1	2	3	4
7	我和朋友会互相串门。	1	2	3	4
8	朋友会关心我的情绪。	1	2	3	4
9	休息的时候，我和朋友一起玩。	1	2	3	4
10	朋友不会把我的秘密告诉别人。	1	2	3	4
11	我和朋友吵架后，很容易和好。	1	2	3	4
12	我和朋友经常一起吃午饭。	1	2	3	4
13	即使发生激烈的争吵，也会认真和谈。	1	2	3	4
14	我们经常帮对方处理一些小事。	1	2	3	4
15	我们分享彼此的想法。	1	2	3	4
16	我们会经常闹情绪。	1	2	3	4
17	朋友完全不听我的解释。	1	2	3	4
18	我们经常让对方烦恼。	1	2	3	4
19	朋友有时会在别人面前说我的坏话。	1	2	3	4
20	我们会遵守承诺。	1	2	3	4
21	朋友会尽早帮我完成任务。	1	2	3	4
22	我和朋友经常发生争执。	1	2	3	4
23	朋友会给我意见，帮我解决问题。	1	2	3	4
24	当有不愉快的事情发生在我身上时，我会找朋友说。	1	2	3	4
25	朋友会在做事的过程中，提出很好的想法。	1	2	3	4
26	我们互相借用东西。	1	2	3	4
27	我们经常吵架。	1	2	3	4
28	我们彼此依赖。	1	2	3	4
29	我们会互相帮忙，完成作业。	1	2	3	4
30	即使我们发生争执，也会很快和好。	1	2	3	4

31	我们经常邀请对方一起做某件事。	1	2	3	4
32	即使别人都不认同我的时候，朋友也会坚定地站在我这边。	1	2	3	4
33	我们经常一起做些喜欢的事情。	1	2	3	4
34	朋友总会想出些游戏的好点子。	1	2	3	4
35	我们经常讨论我们之间存在的问题。	1	2	3	4
36	如果朋友做了什么伤害我的事情，会向我道歉。	1	2	3	4
37	我们会彼此给好的意见来解决问题。	1	2	3	4
38	我们会告诉对方自己的秘密。	1	2	3	4
39	朋友称赞我的长处。	1	2	3	4
40	我们彼此都生气的时候，会一起讨论解决问题的方法。	1	2	3	4

本调查已结束。请您确认是否有漏答，谢谢您的协助。

附録Ⅱ

対人関係の調査に関するお願い

兵庫教育大学大学院 学校教育研究科
学校教育学専攻 学校心理学・発達健康教育コース
浅川 潔司研究室 楊 洋

【本調査の約束とお願い】

- ① 調査結果は、研究の目的以外には使用しません。
- ② 正しい答え、間違った答えはありません。あまり考えずにありのままを答えて下さい。
- ③ 調査は無記名で行い、個人が特定するようなデータの処理はしませんので、ご安心ください。
- ④ 回答（回収）は強制ではありません。たとえ回答しなかったとしても不利益が生じることはありません。
- ⑤ 調査用紙は3ページあります。すべての質問について、とばさずに回答してください。

なお、分析終了後、収集したデータは適切な方法で処分いたします。

あなたについて、お尋ねします。あてはまるものに○印をつけたり、数字等を記入したりしてください。

1 性別 (男 ・ 女)

2 年齢 () 歳

A	あなたが、いろいろな人間関係の中で経験する「人に対する感じ方や考え方」はどのぐらい当てはまりますか。以下の質問で、あなたが一番当てはまると思う番号(1-4)に○をつけてください。	1 全く あては まらな い	2 少 し あて は ま る	3 か な り あ て は ま る	4 非 常 に あ て は ま る
1	私は比較的容易に人と親密になれると思う。	1	2	3	4
2	私は、(知り合いに)見捨てられるのではないかと心配になることはほとんどない。	1	2	3	4
3	私は、心の奥底にある考えや気持ちを人に話すことに抵抗がない。	1	2	3	4
4	私が人のことを大切に思うほどには、人が私のことを大切に思っていないのではないかと私は心配する。	1	2	3	4
5	私は人に頼ることに抵抗がない。	1	2	3	4
6	私は人とあまり親密にならないようにしている。	1	2	3	4
7	私が人ととても親密になりたいと強く望むがために、ときどき人はうんざりして私から離れていってしまう。	1	2	3	4
8	私は、人が必要なときにいつまでも私のためにいてくれないといらいらする。	1	2	3	4
9	私があまりにも気持ちの上で完全にひとつになることを求めるがために、ときどき人はうんざりして私から離れていってしまう。	1	2	3	4
10	私には、人が私に対して好意的であるということを何度も何度も言ってくれることが必要だ。	1	2	3	4
11	私は、私がいってほしいと望むぐらいに人がそばにいてくれないと、いらいらしてしまう。	1	2	3	4
12	私は人に自分のことを好きになってもらうことができなかつたら、私はきっと気が動転して、悲しくなったり腹が立ったりする。	1	2	3	4
13	私が親密になりたいと望むほどには、人は私と親密になりたいと思っていないと私は思う。	1	2	3	4
14	人にだめだなあといわれると、自分は本当にだめだなあと感じる。	1	2	3	4
15	私は人に心を開くのには抵抗を感じる。	1	2	3	4
16	心の奥底で何を感じているかを人に見せるのはどちらかというと好きではない。	1	2	3	4
17	私は、人にもっと自分の感情や自分たちの関係に真剣であることをしめさせようとしているのを感じる 때가ときどきある。	1	2	3	4
18	私は、知り合いが私のことをほっといて自分ひとりで何かをすることが重なってくると腹が立ってきてしまう。	1	2	3	4
19	私は、自分が人に依存することを許すことがなかなかできないと思う	1	2	3	4
20	私は、人に何でも話す。	1	2	3	4
21	私は、知り合いを失うのではないかとけっこう心配している。	1	2	3	4
22	私はたいてい、人と自分の問題や心配ごとを話し合う。	1	2	3	4
23	私は、いろいろな人との関係について、非常に心配している。	1	2	3	4
24	私は、人に慰めやアドバイス、助けを求めることに抵抗がない。	1	2	3	4
25	私は誰かと付き合っていないと、何となく不安定な気持ちになる。	1	2	3	4

26	私はいつも、人が私に対して抱いていてくれる気持ちが、私が人に対して抱いている気持ちと同じくらい強ければいいのになあと思う。	1	2	3	4
27	私は人とあまりに親密になることがどちらかというと好きではない。	1	2	3	4
28	私は、見捨てられるのではないかと心配だ。	1	2	3	4
29	私は、人と親密になることがとても心地よい。	1	2	3	4
30	私は一人ぼっちになってしまうのではないかと心配する。	1	2	3	4
B	あなたが親友との持ち方について、一番あてはまると思う番号(1-4)に○をつけてください。	1 全くあてはまらない	2 少しあてはまる	3 かなりあてはまる	4 非常にあてはまる
1	私のアイデアを肯定してくれるのは私を気分良くさせてくれるよい感じさせる。	1	2	3	4
2	プライベートな事について話す。	1	2	3	4
3	お互いの重要性和特別性を感じさせてくれる。	1	2	3	4
4	私にとっても賢いと言ってくれる。	1	2	3	4
5	悲しいことをお互いに話す。	1	2	3	4
6	もし他の人が私の悪口を言っていたら、私に教えてくれる。	1	2	3	4
7	お互いの家に行く。	1	2	3	4
8	私の気持ちを気にかけてくれる。	1	2	3	4
9	いつも休み時間に一緒に遊ぶ。	1	2	3	4
10	私の秘密を他の人に言わない。	1	2	3	4
11	私たちが喧嘩をしても、簡単に仲直りできる。	1	2	3	4
12	いつも昼ごはんを一緒に食べる。	1	2	3	4
13	ひどい喧嘩をしても、解決のための話し合いをする。	1	2	3	4
14	些細な事をよく互いに手伝う。	1	2	3	4
15	お互いの思いを共有する。	1	2	3	4
16	よく怒っている。	1	2	3	4
17	私の話をぜんぜん聞いてくれない。	1	2	3	4
18	よく相手を困らせる。	1	2	3	4
19	よく他の子に私の悪口を言う。	1	2	3	4
20	約束を守ってくれる。	1	2	3	4
21	課題が早く終わるように手伝ってくれる。	1	2	3	4

22	よく言い争いをする。	1	2	3	4
23	問題を解決するために、アドバイスをくれる。	1	2	3	4
24	怒ったことをお互いに話す。	1	2	3	4
25	物事に取り組んでいる際、良いアイデアを思い付く。	1	2	3	4
26	いつも物の貸し借りをする。	1	2	3	4
27	よく喧嘩をする。	1	2	3	4
28	特別な頼みをお互いにする。	1	2	3	4
29	宿題をよく助け合って終わらせる。	1	2	3	4
30	私たちが口論をしても、すぐに仲直りできる。	1	2	3	4
31	何かをするときお互いに誘う。	1	2	3	4
32	他の人が私のことを気に入らなくても、私の味方でいてくれる。	1	2	3	4
33	いつも一緒に楽しいことをする。	1	2	3	4
34	遊ぶときに良いアイデアを出してくれる。	1	2	3	4
35	いつも私たちの問題について話し合う。	1	2	3	4
36	もし相手が私を傷つけたら、謝ってくれる。	1	2	3	4
37	物事を成し遂げるための良いアイデアをお互いに出す。	1	2	3	4
38	秘密について話す。	1	2	3	4
39	私には得意なところがあると言ってくれる。	1	2	3	4
40	お互いに怒っているとき、その解決策を話し合う。	1	2	3	4

以上で終了となります、記入漏れがないか、再度ご確認お願いします。質問紙のご協力ありがとうございました！